

昨年末、富士見町立富士見中学校生徒の死亡に関して、調査委員会より調査結果の報告を受けました。報告書（全41ページ）では、事実経過、本件の背景、再発防止に関する提言が盛り込まれています。富士見町教育委員会では、今回いただきました調査結果を真摯に受け止め、提言をもとに命を大切にする教育や自死予防教育について教育現場に生かしてゆきます。

報告書は、プライバシーに配慮し、公表できる部分のうち、ここでは、提言された部分を抜粋・要約して掲載します。

また、この提言を受け、どう具体化して取り組むのか、教育委員会で協議をしています。



教育委員会だより

「教育の町」ふじみを目指して

第
98
号

富士見中学校生徒の死亡に関する 調査委員会による提言（抜粋・要約）

第一 子どもの自己肯定感を高めるために

- ・子どもを共感しつつ受け止める。
- ・適度な欲求不満、共感的に、適度に要求を満たして、適度になだめていくことが重要。
- ・子どもを律し理想たらんとする父親の役割、父性の重要性を再度認識する必要がある。
- ・夫婦がいがみ合うことほど子どもにとって悲しいことはないことを肝に銘じておく。
- ・子どもの声なき声を聴く。思春期の子どもは親に秘密を持つ。それが親からの自立を促す力にもなる。では、思いを語らない子どもの声なき声をどうやって聴けばいいのか？乳児は言葉を語らない。しかし親はその気持ちを、泣き方、声の大きさ、表情などから受け止めることができたはずである。思春期は、その応用編である。もちろん、思春期の子どもの心は、乳児よりはるかに複雑であるから簡単ではないが、思いやる気持ちを持って、穏やかに接すれば、子どもの声なき声は聴こえてくる。

第二 自死予防教育を学校現場に導入すべきである

本件では自死をほのめかす言動が数多く発せられていた。自死前の言動や行動は、自死の危険性を示すサインだった。大人にはそのサインが一切気づかれていた。 「命を大切にする教育」だけでは自死予防教育にはならない。周りの子どもたちが自死のサインに気づき、然るべき対処ができる「自死予防教育」の学校現場への導入を提言する。

第三 いじめの芽に関する学校関係者に対する提言

「いじられキャラ」と「じゃれ合い」について。生徒の特性の把握について。今後は、いっそう生徒個々人の特性に留意し、より細やかにいじめや自死に「発展」する芽を発見し、適切な指導をなすことに努めるべきである。

第四 マスコミ関係者に対する提言

自死の原因の報道は、警察や学校等の調査結果を待ってなすべきであり、十分な調査結果が出ていない段階で、軽々にいじめに原因があるかのような報道はすべきでない。

また、生徒に対する取材は、事実関係が明確にならない段階では行うべきではなく、行う場合は生徒に対する精神的影響に十分に配慮すべきである。生徒の死亡後、自死の原因を明らかにするには、諸々の調査が必要であって、早急に結論を出せる問題ではない。

平成26年2月1日発行
富士見町教育委員会編集
☎62-9235
kodomo@town.fujimi.lg.jp

2月
定例教育委員会
2月12日(水)
午前9時30分より
役場2階
教育長応接室
傍聴歓迎！

子どもに関する
なんでも相談
月曜日～金曜日
午前8時30分
～午後5時15分
☎62-9233
家庭・教育相談員
(鈴木)

今月の無料塾
(水曜日講座)
富士見中
1・2年生対象
◆2月5日(水)
◆2月12日(水)
●いずれも時間は
午後3時50分
～午後6時30分
問 ☎62-9235

今回、富士見中学校生徒の死亡に関する調査委員会よりいただいた提言を受けて、1月9日、16日の2回、臨時教育委員会を開催し、富士見町教育委員会としての受け止めかた、また今後の方針と対応について協議しました。内容については以下のとおりです。

今後の取り組みについて…

①保護者向け、子ども向けに、自死予防対応マニュアルを作る。

- ・保護者向け…うちの子どもに限ってという考え方を持ちがちだが、町内すべての親が、自分のこととして考えていけるような啓発。例) 家庭としてどうあるべきか、夫婦としてどうあるべきか。また子どもからの自死のサインとはどういうものか。また、それをどう受け取り、どういった対応が必要なのかなど、実際に即して、いざというときに親としてどういった心構えや対応が必要かといったことをわかりやすく示すようなパンフレットを作成する。
- ・同様に特に思春期の子どもたちは親や先生といった大人にはサインを発せず、友達に向か、サインを送る傾向を重視し、もし友達が死にたいといったらどうするのか。といった具体的な自死予防の方法を伝えるようなパンフレットを作成する。

②学校に対しては、提言についての学校側としての対応について意見交換をしたい。

③教職員に対する、研修実施の検討。

④自殺予防週間（例年9月上旬）、自殺対策強化月間（例年3月）への取り組みの強化。

⑤今後、この提言を受けて教育委員会関係機関との様々な懇談等を重ね、提言を具体的に学校現場や地域でどう活かしていくかを引き続き検討していく。その検討内容や、自殺予防に関する内容については教育委員会だよりの中でお知らせをしていく。

ソニー教育財団ソニー子ども科学教育プログラム 富士見中 最優秀賞受賞

ソニー子ども科学教育プログラムにおいて、全国193の小中学校から応募があった中、富士見中学校が3年連続して入賞し、本年度は最優秀校（全国小中1校ずつ）に選ばれました。研究テーマを『「科学する心」を育む富士見中の学舎づくり—「科学する心」で育む「科学が好きな子ども」—』として、理科の授業を中心に子どもたちの感性を育てる実践活動が評価されました。

最優秀校には教育助成金が贈呈されます。また、広く研究成果を発表する場として来年度は富士見中学校で「子ども科学教育研究全国大会」が開催され、全国から300名以上の教育関係者がこの大会に訪れます。なお、贈呈式が2月1日に予定されています。この様子については3月号でお伝えします。

実績：2011年 優秀校（全国14校）／2012年 優秀校（全国14校）

論文執筆者及び研究メンバー：三村昌弘校長先生

名取克裕先生（教務主任）

伏見之孝先生 五十嵐啓一先生

湯田坂拓先生 大井悠己先生



2月16日（第3日曜日）は
家庭の日・家庭読書の日

厳寒の季節を家族への温かな思いやりで元気に乗り切
りましょう。

編集後記

富士見の寒さを生かしたスポーツが楽しい季節、家族皆で体を動かして温まるのもいいですね。（G）

